

活動報告

介護は突然やってくる！

会員ライフサポート部 大島奈緒美

会員ライフサポート部
活動報告 第39報
職場環境を考える

私が会員ライフサポート部に所属してもう7年以上経つだろうか…女性の出産育児などの問題から男性の育児まで。その就労支援のための調査・活動などを行い、そのほかセクハラなどに関する話題にも触れてきました。そして部内のテーマが介護へと移行したのはもう3年近く前でした。みんな「身近で考えられないからね…」と言っていた言葉を今でも思い出します。

私は高校生になる息子と私の母との3人暮らし。主人は2年前から海外へ単身赴任しています。主人の親は母親のみで（義母73歳）主人の弟（会社員・独身）と県内でふたり暮らしをしています。

昨年、息子の高校進学挨拶に入学式の帰りに実家に行きました。もともと車で1時間程度のところですが、これまでも年に数回くらいしか顔を合わせてはいませんでした。この日は息子と義母と3人で食事に行く約束でした。実家に着くと居間で横になる義母の姿があり、「昨日お風呂場で転んで尻もちを付いた」とのことでした。食事は中止となり帰りましたがさすがに気になり翌日から毎日電話を入れてみました。でもいつも電話の言葉は「大丈夫よ、動かなければ痛くないから」とのこと。その日から5日目、いつものように電話を入れるとさすがに義母も限界だったのでしょう。「実はあの日以来全く動くことができずあの居間で寝たきりだと。トイレにも行けず義弟に買ってきてもらったおむつで用を足している状態。食事も食欲がなくほとんど食べていないと。」初めて現状を教えてくださいました。すぐに救急車を呼んで病院に行くように言い、私も職場から駆けつけました。救急車で運ばれた先は市内の急性期病院でした。私が行くと救急室の隣の部屋でストレッチャーに寝かされたままの義母の姿。レントゲンの結果が出るまで待っているとのことでした。医師の診断は第4腰椎圧迫骨折。コルセットの採型をしてから帰っていいとのことでした。さあ、困りました！義母は歩くどころか起きることもできません。このような状態では連れて帰っても生活できません。入院させて欲しいと頼みましたがきっぱり断られました。自宅は和式トイレだし、義弟は働いておりほぼ独居という状態です。もうこの際仕方ないと思い、自分の勤務先の病院のMSWに電話をしてみました。ベッドが空いているので受け入れられるとのことでした。とりあえず一安心！救急の医師に紹介状を書いてもらい、介護タクシーを自分で手配し、自分の勤務先の病院に移動させ入院させることになりました。

お願いしておいてこう言うのは身勝手だが…自分の職場の病院に身内を入院させるというのは実にバツが悪い！身内のボロをさらけ出すようだし、非常に気を使います。義母の場合は重度な糖尿病もあり入院当初から血糖値や血圧など様々な内科的問題も発覚。また原因不明の嘔吐や発熱を繰り返したこともあり、そんなときは「どうしてすぐに検査しないのか？」とか医師の治療そのものや看護師に対して不満めいたことになっていきますが言いたいことも言えず…まさにストレスの期間でした。当然リハビリも行ったわけで、担当決めも後輩たちがジャンケンして決めているような状況。そりゃ～上司の身内の担当なんて嫌でしょうね、わかります！

入院生活も3ヶ月を超え、明らかに異例の長さということには分かっていました。当初は元の生活をとっていましたが、本人の意欲的な問題もあり、介護度は「要介護3」が出ました。今後の選択肢は①在宅②老健③有料ホームこの3つです。在宅は独居の時間が長いぶんかなり厳しく、本人の性格上デイサービスにも行かないでしょうから無理だと思いました。食事の支度や薬の内服のことを考えても不可能です。あとの選択肢は老健。こちらも義母の性格上、集団生活はかなり厳しいものがありましたからこれまた不可。残るは有料ホームと言われているところです。ここのいいところは個人の生活がある程度保証されている点でした。他人から強制されることが嫌いな性格ですし、他人との関わりも苦手な方なのでここしかないかなと思いました。早速、いくつかの有料のパンフレットを取り寄せ、施設見学です。調べてみると実に種類が様々あります。

一般的に有料老人ホームと呼ばれるものは介護保険上の正式名称では「特定施設入居者生活介護」にあたると思います。ほかにも似たようにもので「住宅型有料老人ホーム」「健康型有料老人ホーム」があり、使えるサービスが変わってきます。介護付き有料老人ホームの総称に代表される「特定施設入居者生活介護」では入居した施設において看護、介護サービスに対応してくれますが、デイサービスのような外部のサービスを使うことはできなくなります。福祉用具のレンタルも自費になります。一方、「住宅型有料老人ホーム」では介護などのサービスは全て外部から入れることになり、必要なサービスを利用者個人が契約をして使うようになります。老人の集合住宅といった印象です。制度的にはほかにも「軽費老人ホーム」「ケアハウス」「グループホーム」「サービス付き高齢者向け住宅」などたくさんあ



ります。今回のことで結構勉強になりました。

更に悩まされるのが料金です。介護付き有料ホームでは、かかる料金や環境も様々。入所金というものはゼロのところから数千万円まで。高額なところは高級ホテルといった感覚で、施設内に温泉やエステ、トレーニングジムまで完備してありました。入所金の他に当然毎月の費用がかかります。こちらは介護度によって多少違いますが一般的には年金で払えるくらいに設定はしてあります。食費、おむつ代は別会計です。医療行為が必要になった時の体制も施設によって違い、吸引、透析送迎、胃瘻などに対応できるところもあればできないところもあります。とまあ実に多様化しており一様に比較できないのが現状でした。義母の貯金を含めた経済状態と家族全部の経済力とを考え、正直あと何年生きれるかなんて考えも加えて、施設を決定しました。義母にとってはここが終のすみかとなるところです。いいところを選んであげたいと探しました。

私の場合は頻回に顔が出せるようにと私の家に近い場所の施設に決めました。その施設ではかかりつけ医が決まっています。契約すれば訪問診療で医療が受けられます。また眼科などは施設の看護師が同行して受診に連れて行ってくれます。働いている私にとってとても魅力のサービスでした。私の場合も主治医となる医師を施設の訪問診療医とさせてもらい、私が受診の時に同行し今後の治療方針や緊

急時の対応などの話をしてきました。ですから施設入所以後は電話での受診状況の報告だけとなりました。特別な治療が必要な場合は当然無理ですが、日常のかかりつけ医が訪問してくれるのは非常に助かります。ほかにも食事療法が必要な義母だったので、施設のカロリー計算された美味しい食事に本人も満足しています。日当たりのいい部屋で大好きなテレビを見て毎日のんびり生活しています。今は入所してから半年が過ぎましたが、弟とも予定を合わせ月に1回程度は実家に外泊させています。また私の仕事の休みなどは近くのスーパーなどで一緒に買い物など楽しんでいきます。

「介護は突然やってくる！」まさに実感した感想です。私の場合は今回義母は施設入所という選択でした。現在、私は実母（80歳）と同居しています。こちらの介護もいつ始まるかわかりません。自宅での介護となったらはたして仕事は続けられるのでしょうか？また家族として預金や生命保険の内容など事前にある程度知っておくことも必要だと実感しました。

若い人達が多い職業ですが、介護は親だけではありません。いつ身近で始まるかわかりません。会員ライフサポート部としてさらに情報を発信していく必要性を痛感しました。



●●●会員ライフサポート部部員募集●●●

一緒に活動して下さる方大募集。年数回、神奈川県理学療法士会事務所で集まって活動しています。また、会議には参加できないけれど、ご意見、ご要望がある、メールを通して活動に参加したいという方（メールサポートメンバー）も随時募集しています。

連絡先：lifesupport@pt-kanagawa.or.jp（会員ライフサポート部 寺尾）